



1月園だより

令和5年1月4日
目黒区立原町保育園園長

🏮 あけまして おめでとうございます。今年もよろしくお願ひいたします。🏮

新しい年の幕開けは物事の節目となり、気持ちも引き締まります。今年も子どもたちの元気な声と笑顔でスタートしました。お正月休みの中で「あけましておめでとう」という新年の挨拶をたくさん聞いた子どもたちは、久しぶりに会う友達や職員に、自分なりの表現や身振りで挨拶を伝えてくれます。「挨拶」はコミュニケーションの基本であり、人と人が気持ちよく生活するうえで日常生活には欠かせないコミュニケーションのひとつです。地域の学校でも毎朝の挨拶運動が行われています。毎朝元気に「おはよう」と挨拶をすることで体も心も脳も目覚め「よし。今日も頑張ろう」と気持ちも高まります。挨拶を通して子どもたちの社会性も身につけ、更に地域の安心、安全にも繋がっていくのではないかと感じています。今年も元気に笑顔で過ごせる明るい社会となりますよう心から願ひます。職員一同、子どもたちの健やかな育ちを願ひ、保育力向上を目指していきます。

1. 2月は各クラスとも懇談会を予定しています。保護者の皆様とともに、子どもたちの成長を確認し、次年度への保育と子どもたちの成長発達に繋がる懇談会にしたいと思ひます。子どもたちは、成長を願ひ応援してくれる人がいることで、頑張ろうという心が芽生えます。子どもたちの頑張る姿は、子ども同士や私たち大人をも励ましてくれます。その励ましの連鎖を広げていきたいと思ひます。お忙しい時期とは存じますが、是非ご都合をつけてご参加くださいますようお願ひいたします。



今月の予定

避難訓練・身体測定



懇談会の予定

- 5歳児クラス懇談会
- 3歳児クラス懇談会
- 0歳児クラス懇談会

※ 懇談会は3階ホールで行います。

原町保育園農園～冬野菜

園庭の畑に大根・小松菜の種を植え、プランターにブロッコリー・カリフラワー・ロマネスコの苗を植えました。種や苗から育てることで植物が生長する様子を観察し、育てる喜びも感じられるようになりました。水やりをしながら「あ！おおきくなってる」と、嬉しそうに教えてくれる子どもたちです。



ブロッコリーを見つけると嬉しそうに「アイスクリームみたい」「恐竜みたいだね」と話しています。(2歳児クラス)



育てていたブロッコリーが立派に育ち、先日0・1歳児クラスが収穫しました。触った感触に驚いた表情を見せたり「おおきい」と声をあげて喜んでいました。「ブロッコリー嫌なの」と話していた1歳児も、美味しそうに食べる友達の姿を見て、少しだけ自分から食べようと口に運んでいました。

のびよう会を終えて

12月9日に、幼児クラスの“のびよう会”が行われました。保護者の方の前で劇と合奏を行い、のびのびと楽しそうに表現していました。“のびよう会”を終えての各クラスの様子を紹介します。

さくら組（3歳児クラス） 『ぐりとぐらになって』

のびよう会が終わっても、大好きな『ぐりとぐら』の歌を口ずさみながら遊んでいます。園庭に出ると絵本のようなカステラづくりが始まり「小麦粉・お砂糖・バター・牛乳を入れてよく混ぜます」と言いながら、洗面器に少しずつ砂を入れてシャベルで混ぜています。できあがると「みんな、できたよ。これからパーティーがはじまるよ」と、友達を呼んでバスマットの上に座り、ぐりとぐらになりきって楽しんでいます。室内でのごっこ遊びでは、当日に自分が演じた役と違う役になってみたり、4、5歳児クラスの歌を口ずさんだりしています。これからも友達とイメージを共有しながら、表現するおもしろさを感じられるような活動や取組みを楽しんでいきたいと思えます。



ほぷら組（4歳児クラス） 『みんなでできた!』

のびよう会では大好きな話『うらしまたろう』の劇に取り組んだほぷら組の子どもたちです。当日に向けて、家族の方に観てもらうのをとても楽しみにしていました。前日、何人かお休みの子がいて「お休みの子の分の台詞はどうしようか」と、子どもたちに相談することにしました。「代わりに言う」「同じ役の子が言えばいいんじゃないの」と子どもたちから意見が出て、前日の練習では代役も兼ねてみんなで役割を果たしていました。当日は、ほぷら組21人全員が揃い「やったー!全員揃ったね」と、とても喜び、みんなで楽しく演じていました。

のびよう会を通して、みんなで協力したり、一つのことをやり遂げた経験が大きな自信となったように感じます。これからも、友達とやりとりをしながら関わりが広がるように見守っていききたいと思えます。



くすのき組（5歳児クラス） 『やり遂げた のびよう会』

本番では、緊張しながらも練習を重ねてきた自信から、いつも以上の姿を一人ひとりが発揮していました。劇に向けて自分で役を選び、その役でやりたい場面も同じ役の友達同士で話し合って決めていました。練習を通して、友達の頑張る姿を見て「大きな声が出ていて良かったよ」と認める声かけや、どう表現して良いか困っていると「こうするのはどうかな」などとアイデアを出し合い、友達のことを気にかける姿が多くなりました。のびよう会を終えて「また劇をしたい」と劇ごっこをすることになり、どの役でどの場面を演じるかすぐに決まりました。友達の演じた役を再現する喜びで、始終笑顔の子どもたちでした。自分のセリフで精一杯だった姿から、いつの間にか友達のセリフを覚えて楽しんでいることも伝わってきました。

のびよう会を通して友達に認められたり、一緒にアイデアを出し合い協力することで作り上げた達成感などが、皆と活動する喜びにもつながっています。